

大使コラム（2012 年 1 月）

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

ポルトガル在勤も 1 年を超え、当地で 2 回目の新年を迎えました。

日本は厳しい状況が続いていますが、困難を乗り越える祖国の努力に、異国にある我々も少しでもお役に立てないかと願いつつ、大使館の活動を続けてきました。

ポルトガルでも東日本大震災のあと、大統領や政府、国会から見知らぬ庶民、マスコミに至るまで、多くの方々から日本への励ましと、日本人の対応に賞賛の言葉をたくさん頂きました。地元の人々による日本支援の活動も、盛んに行われました。

他方、昨年はポルトガルも財政危機の克服に苦闘し、3 月には E U などの財政支援を求める事態に陥ったのは、ご存じの通りです。その後の総選挙で生まれた新政権は、財政再建のため緊縮政策をさらに進め、経済の競争力強化のため経済、社会制度の改革に着手しています。

当面はマイナス成長と失業の増加が続きますが、国民は負担を受け入れる覚悟をしているように見えます。厳しい運命も甘受する国民性だけでなく、状況を冷静に判断する知恵も感じさせられます。ただし、この忍耐がいつまで続くのか、目に見える成果が出るまでの時間との競争になるでしょう。

日本との関係では、先方の期待の大きさにもかかわらず、双方の経済状況もあり、日本からの投資はなかなか進みませんでした。しかし、ポルトガル向けの欧州基金（E F S F）に日本も応分の融資を行い、また投資環境の整備のため「二重課税防止条約」に先日署名を終えたことは、ポルトガルから感謝されています。

文化交流では、伝統的な日本文化だけでなく、ポップカルチャーへの若者の関心の高さに改めて強い印象を受けました。

ポルトガルの国民歌謡「ファド」が、先月、当国 14 番目の世界遺産に登録されたのは嬉しいニュースでした。観光の面でも、この国の文化や自然、それに比較的良好な治安や物価などから順調だったようです。

日葡双方は多事多難の状況にありますが、両国間の協力と交流の促進で何が可能なのか見極めながら、引き続き関係発展に努めて参りたいと考えています。

新年に当たり、ご家族の皆様のご多幸とご健康をお祈り申し上げます。